

守る会岡山 52 号
2023. 6. 1 発行



森永ひ素ミルク中毒の被害者を

守る会岡山

岡山県本部事務局

〒700-0984 岡山市北区桑田町18-28

明治安田生命岡山桑田町ビル4階

086-232-3855



新型コロナも落ち着き普通の日常が戻ってきました。

5類になっても新型コロナに気を付けながら、

少しずつ楽しく健康的な毎日にしましょう！

将来的な救済事業とひかり協会の運営・体制について

岡山県本部 森脇 良明

守る会では、75歳以降どんな救済事業を望むかを、元気なうちに決定し協会に提言するため、昨年から1年間かけて組織的に論議してまいりましたが、4月になって最終版が策定されました。

岡山では守る会会員の皆さんや、協力員の皆さん、交流会に集まった被害者の皆さんからいただいた意見を役員で取りまとめ、論議した結果を守る会の全国代表者会議や全国本部に意見・要望をしました。

(1) 地区センター事務所の縮小・閉所、相談事業

その内容は「高齢化した移動範囲の狭い被害者にとって頼みの協会は身近にあって欲しいし、私たち被害者が亡くなるまで地区センター事務所を存続して欲しい」「救済事業のあり方に相談事業は、どんな相談にも応じる総合的な窓口を持つと記述されている。この部分は変更しないで欲しい」です。

しかし、守る会全国本部の態度は厳しく、岡山はなぜそんなに反対するのか？という声も聞く中、2月になって全国本部から修正版が策定され、その内容は各都府県本部の意見が反映されており、「本当に困ってしまった場合には、ひかり手当等の受給者でなくても、ひかり協会に相談できる」など前向きな内容でした。

岡山では修正版を基に論議し直し「障害のある被害者の相談については、地区センター事務所が閉所された後も、当分の間は現地に事務所を置き、相談の状況を見ながら本部事務所に集約して欲しい」「地区センター事務所閉所後も、相談業務に限定したブロックの職員体制を維持されたい」という全国本部修正案に賛成した上で、「名前や場所が変わっても、職員同士が顔を合わせて業務に当たれる職場環境（事務所の設置）を要望する」など地区センター事務所閉所後の事務所の設置を強く全国本部に意見・要望してきました。

これらの要望意見については、4月に全国本部から出された最終意見集約によると「ひかり協会の職員相談体制については、今後ひかり協会の理事会から7月に出る「構想（案）」で示すよう要望しているとの回答でした。

(2) 協力員活動

協力員活動については、75歳で終了する第3次10ヵ年計画の終了を待たずに70歳で終了して欲しいという都府県本部もあり、「75歳で終了するのではなく、元気で継続を希望する協力員については、規模を縮小して継続して欲しい。」という岡山の意見も規模を縮小すれば、少人数の協力員では、対象被害者全員の呼びかけはできなくなるし現実的ではありませんでした。

協力員活動が終了しても現在担当している被害者と連絡を取り合う活動を続けたいなら、協会からの委嘱がなくても被害者個人として繋がりを継続する事はいくらでもできます。

協力員活動に限らず、自主的グループ活動でも、活動は終了しても、娯楽や親睦を楽しむグループとして守る会の絆が岡山で継続できたらいいなあと思います。

なお、守る会の提言（案）は6月18日（日）に開催される全国総会で決定されます。

未開封ミルク缶発見される！ 岡山大学医学部（旧衛生学教室）



令和5年3月21日の山陽新聞に岡山大学医学部（岡山市）に事件当時に製造された未開封のミルク缶が保管されていることが関係者の取材で分かったと発表されました。この缶は森永乳業徳島工場で1955年5月6日に製造された物でMF5506の刻印が打たれています。まさにヒ素が混入した時期の製品です。岡大医学部ではミルク缶と当時の被害者のカルテを探し出し4月17日より医学資料展示室にて一般公開されました。

これに合わせてテレビ局の瀬戸内海放送から取材の依頼があり、守る会やひかり協会などが取材を受けました。

また4月26日に医学資料展示室の一般公開に被害者の有志10人で見学に行きました。

㊦ 展示中の未開封

森永ミルク缶

岡大医学資料展示室

㊦ 未開封ミルク缶発見

を伝える。山陽新聞

㊦ ミルク缶展示室



展示室では医学資料室長補佐の木下浩研究員より展示物の詳細説明が有りました。第1号患者のカルテと第55号患者のカルテが展示されていて詳しい説明をして頂きました。岡山大学医学部では過去から現在までの膨大な量のカルテが保管されているとお聞きしました。

第1号の患者は原因不明のまま死亡され、後日ヒ素による中毒死と書き加えられています。第55号患者はヒ素中毒と判明後に解毒剤のバルを投与され快方に向かい軽快退院と書かれています。どちらのカルテにも森永の赤いハンコが押されていました。

岡山大学医学部 ヒ素ミルク未開封缶見学会 参加者の感想

備前支部 入江 弘

岡山のミルク仲間の有志10人で4月17日から岡山大学医学部で公開されている昭和30年に起きた森永ヒ素ミルク中毒事件の原点とも言うべき未開封のミルク缶を見学に行ってきました。

事件当時の被害者の親が岡山大学医学部へ真相究明のために寄贈したものです。

資料室には、昭和30年の被害児二人のカルテ、事件の経緯、当時の新聞が展示されていました。展示物を見ながら親たちの我が子を救いたいと言う強い思いがのちに医師や養護教諭、保健師、弁護士等の心を動かし事実を調査したことが現在の恒久救済に繋がったと思いました。子供を守ろうと企業や行政機関に訴え続けた親たちの思いに感謝して、ヒ素ミルク中毒事件の歴史を後世に残して行くことが重要であると感じました。

備中支部 張谷 俊郎

ミルク缶の実物は思いのほか小さかった。カルテを読んで心に一つ一つ事実がズキンズキンと入ってきた。

特に第一カルテを読むと心の中で泣いていました。他人事ではなく自分の事のように思いました。

展示が出来るように多方面に交渉してくださり、この事件を学習されて経過などを正確にまとめてくださった研究員の方に感謝します。この事件に真剣に向き合ってくくださった事に感謝しました。

被害者の私より事件を詳しく知っておられて頭が下がりました。

備前支部 長本 秀美

「小さい！これがあの重大な事件を引き起こした商品なのか！」第一印象はこの思いでした。

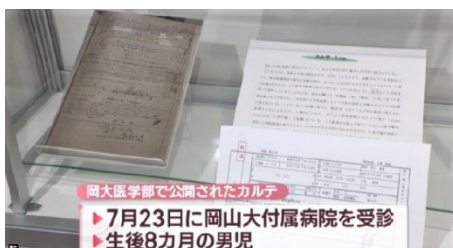
現物の最初の患者のカルテが展示されていました。わずか生後数ヶ月で命を断った子供のです。

大きくなれとミルクを飲ませ続けながらも、わが子の体調の変化に戸惑い、どんな思いで病院の門をくぐったのだろう。まさか自分が与えていたミルクの中にヒ素が・・・とは。思いもよらなかっただろう。

親の気持ちを思うと胸がしめつけられる思いでした。

今回の展示にあたり多方面の方の努力やお力添えを頂いた事に本当に感謝いたします。

見学がまだの方はこの貴重なチャンスに是非一度展示を見て過去の思いに触れて頂ければと思います。



【特集】森永ヒ素ミルク事件のいま 発生から68年…未開封のミルク缶を岡山大が全国初公開
未開封ミルク缶の見学会の様子が瀬戸内海放送の「パークKSB」の中で5月8日に放送されました。未開封ミルク缶の公開の様子や事件発生時の岡山大学医学部に残された第1号の被害児カルテの説明、被害者の菅野孝明さんのインタビューなどと森永ヒ素ミルク事件についてとても詳しく調べて構成された内容です。この未開封ミルク缶の保存に関わった岡山大学 太田武夫名誉教授の貴重なお話もありました。

現在この特集はKSB瀬戸内海放送のYouTubeチャンネルやヤフーニュースで公開されています。

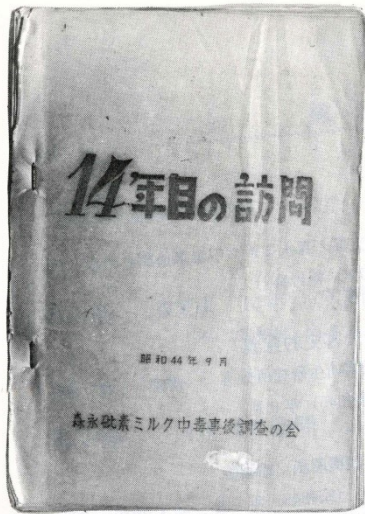
「森永ヒ素ミルク事件」で検索すると出てきます。是非ご覧ください。

資料公開は10月27日まで。未開封ミルク缶と資料の見学をご希望の方は下記まで連絡して下さい。

岡山大学医学部 医学資料室 ☎086-235-7004 事前に予約が必要です。

森永ひ素ミルク中毒事件の歴史 その6

備中支部 平松 邦夫



日本全国で、森永ひ素ミルク中毒事件の記憶が消えかかっていた 1969 年 10 月、「丸山報告」が発表されました。ほぼ 100%の国民が、1955 年のひ素ミルク中毒事件は終わったと思われていた時期だっただけに、発表は非常に衝撃的でした。大阪大学医学部衛生学教室の丸山博教授らが「14 年前の森永 MF ひ素ミルク中毒患者はその後どうなっているか」と題して、大阪府下に住む 67 名の被害児の追跡訪問調査結果を発表したのです。内容は、丸山教授の呼びかけで結集した養護教諭や保健婦、医学生等が事件発生当時の被害児宅を一軒々訪問し、その結果を冊子にまとめたものです。「脳性神経症状」や「身体上何らかの一般的でない症状」等と思われる被害児の存在が多数明らかになり、読む者に一読しただけで学齢期にあるこの子ども達に何らかの対策が早急に必要となっている、と認識させるに十分な内容だったと思われます。国民にとっての驚き

は、同時に当時の医師等専門家にとって、青天の霹靂とも思える驚愕の発表だったでしょう。なにしろ 1955 年当時の「五人委員会」、「西沢委員会」、「三者会議の結果」(県、医師会、岡大)のいずれも『後遺症なし』で一貫し、付け入る隙を与えなかった。

そして、それが一般社会のみならず専門家の世界でもすっかり定着していたのでしょうから。当然の帰結ですが、丸山教授は当時の「後遺症なし」と結論付けた医師から、すさまじい追及を受けます。丸山教授は、それら一つ一つにきちんと向き合い、反論し同意を取り付けていきました。それは丸山教授の誠実な人柄があったことに加えて、「毒ミルクを飲まされて苦しみ続けた当時の子ども達を、14 年間誰も追跡してこなかった」ことを世に問う真摯な姿勢があった故のことと思います。



* 守る会よりお知らせ 「高野山参拝」に参加しませんか？

守る会岡山県本部では新型コロナの影響で行けなかった高野山への参拝を企画しています。



事件発生から 68 年経ちました。

みんなで龍泉寺や観音像への参拝をすることで改めて事件を見つめなおしてみませんか？

時期 10 月 29 日 (日)・30 日 (月) の予定

参加費用 2 万円程度 (宿泊費・昼食代・その他)

募集人数 20 人程度

* 詳しくは決定後に改めてご案内いたします。

機関紙「守る会岡山」に記事投稿、エッセイ、活動報告、制作作品など
どしどしお寄せください。お待ちしております。

「守る会岡山」ホームページ <http://www.mamorukaiokayama.sakura.ne.jp>